

この質疑応答録は、10月26日(金)に開催したアナリスト、ファンドマネージャー向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■業績見通しについて

質問 1

今回、業績予想を修正されましたが、上期の状況に対して少し弱めなのかなという印象です。下期予想の考え方について教えてください。

回答 1

上期はコンクリート構造物向け工具の鉄筋結束機「ツインタイア」の販売が好調となり、業績に貢献しました。同製品については、国内発売が昨年の11月、海外発売が今年の1月でしたので、下期に関して継続して伸長するか不透明です。そのため、売上高は変更せずに704億円で据え置きました。

■インダストリアル機器事業について

質問 2

鉄筋結束機は今後どのくらいまで市場が拡大するののかという視点で、潜在的な市場規模や普及率、作業に対する機械化率を教えてください。

回答 2

鉄筋結束作業全体の潜在的な市場規模は把握できていません。一部のプレキャスト工場では、鉄筋結束機「ツインタイア」の導入により、作業の機械化率が80%から100%となった事例もあります。しかし、プレキャスト工場の市場に対する普及率はまだ低いと考えています。

今後は、作業対応可能な鉄筋径のバリエーションを増やすことなどにより、さらに機械化率の向上を図ります。

海外では、欧米を中心に普及を進めていますが、今後は、東欧など新規開拓国でも、鉄筋結束作業の生産性を高めるツールとして市場に訴求していくことで事業成長につなげたいと考えます。

質問 3

インダストリアル機器部門のコンクリート構造物向け工具の売上高について、上期実績や前年同期の実績、今期計画を教えてください。

回答 3

コンクリート構造物向け工具の上期売上高は国内が約18億円、海外が約53億円、合計で約71億円、前年同期に対しては国内外あわせて約40%の伸びです。

今期の計画に対しては実績ベースが少し上回って推移しています。

■オフィス機器事業について

質問 4

オフィス機器部門のセグメント利益率が上期実績で前期よりも低下しています。下期はさらに低下する計画ですが背景を教えてください。

回答 4

当社では、インダストリアル機器部門、オフィス機器部門ともに環境対応費という形で一定の予備費を含めて計画を策定しております。その関係で下期計画は、オフィス・イダストリアルともセグメント利益率が若干低下する傾向になっています。プロダクトミックスの影響も含んでおり、上期での前年比に対し、利益の傾向が大きく変化すると見込んでいるわけではありません。

事業環境の側面では、ペーパーレス化など中期的な市場成熟化を想定しています。オフィス機器部門全体をとおして、事業内容を変革していかなければならないと考えています。

質問 5

オートステープラの取引先での在庫調整は、いつごろ正常化していきますか。

回答 5

例年、第3四半期に在庫調整の傾向が見られますが、その後は正常化していくことが予想されます。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が10月26日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。